

パイプオルガンのトリビア

～vol.3～

ところで、なぜこの小さな国オランダでパイプオルガンの音色が満喫できるのか…納得のいかない読者も多いかもしれませんね。その秘密を明かすキーワードは「第2次世界大戦」。パイプオルガンはバッハの活躍した時代に発展し、北ドイツはじめ北欧やオランダを中心には次々と楽器が建造されますが、その多くが戦争による爆撃で消失しました。

街を歩くとお気づきになると思いますが、ヨーロッパの人々は広場と教会を中心にして町をつくりました。お金持ちから貧しい民衆まで一同に集まり祈りと交流を楽しむ場所。婚活も、結婚式も、子どもの誕生を祝うのも、そして臨終も全部教会。教会はまさしく人生そのもの。天にも届きそうな教会の塔はおのずと町のシンボルとなったのです。



第二次世界大戦が始まると皮肉にも教会の塔が市街地の爆撃の目印となりました。デンマークやノルウェーの主要なパイプオルガンはドイツ軍によって破壊されています。ネーデルラント王国も戦禍は免れられず 1941 年 5 月 9 日ナチス・ドイツの侵攻を受けます。軍事力が脆弱だったオランダは全面降伏—ドイツ侵攻後わずか 10 日間の出来事でした。大戦末期の 1945 年、連合軍によりドイツ全土が爆撃を受け、多くの都市が焦土となりました—教会もパイプオルガンも破壊されたためドイツに現存する 18 世紀の楽器はオランダと比べるとごく僅かです。…そう、オランダの美しい街並みも教会もパイプオルガンも昔のままの美しい姿をとどめているのは戦争の歴史があるからなのです。オランダのパイプオルガンには全てを受入れる懐の深さがあるような気がしてならないのは私の錯覚なのでしょうか。

私のパイプオルガンとフルートのための《春の海》はコンサートに来て下さるオランダ人のために作曲しました。世界初演はオランダ、フルート独奏はオランダ人のマリアン・ヤスバース・フェイユース（写真）。日本の音楽ってどんなもの？と思う西洋の人に上手く説明したくても日本人の私には言葉が追いつかず空回り。どうすれば上手く伝えられる？…日本の旋律をつかった演奏で答えてみたらどうだろう、だって演奏は私の言葉そのものだから。この試みは会場の皆さんとの温かい拍手で迎えられ、次第に会場から再演のリクエストがかかるようになります。

《春の海》は私の重要なレパートリーになりました。1本1本の笛の音色が作るパイプオルガンでは雅楽の笙や和太鼓の音色を模倣することができます。石造りの響きの豊かな教会で演奏することで、東洋的な音楽表現はより一層アジア的な香りを放ち、「春

の海」のゆったりとした旋律が—歴史的な西洋建築の空間の中で漂い—バッハやヨーロッパのオルガン作品と肩を並べて演奏されることによって宗教からも洋の東西からも解放される…そんな錯覚さえ与えてくれる。日本とパイプオルガンというめぐり合わせも実はオランダが導いたトリビアなのです。



(写真上) パイプオルガンの内部には何百ものオルガンパイプが収められている。150 年以上前にオランダのオルガン職人たちの手で造られた。短く細い筒で出来たパイプからはピアノの最高音よりもさらに高い音が鳴る。

(写真左) マリアン・ヤスバース・フェイユース、2009 年公演のもの（アムステルダム西教会にて）

塚谷 水無子（つかたに みなこ）

東京芸大卒業後オランダへ。オランダ、日本を中心に活動するオルガニスト。オランダでリリースされた 2 枚の CD 「風のささやき 1・2」（キングインターナショナル）、クラシックの名作を集めオルガンの魅力の全貌に迫る CD 「癒しのパイプオルガン」（キングレコード）大好評発売中。www.minakotsukatani.com

●公演スケジュール●

2010 年 5 月 15 日（土）15:00 カザルスホールコンサート ゲスト：青島広志

2010 年 5 月 28 日（金）13:00 ランチコンサート アムステルダム西教会

共演：マリアン・ヤスバース・フェイユース
(さくらさくら ジャズふう五木の子守唄ほか)

